

環境保全のために私たちができること

人間科学部 コミュニケーション学科 2年 川野辺ひかる

韓国・大邱カトリック大学

I. はじめに

1. 研究背景・目的

- ・この課題に取り組むようにした理由

私が、今回の留学で取り組んでいる SDGs 課題のテーマは「環境保全のために私たちができること」だ。私は、本国が抱えているたくさんの課題の中で環境問題に着目し、この課題について、SDGs17 の目標の中でも特に環境問題に関連する「気候変動に具体的な対策を（目標 13）」の視点から課題解決に向けて私たち 1 人 1 人には何が出来るかについて考えていく。

- ・個人的に関心を抱くようになった理由

日本でも数多くの環境問題への取り組みが行われているが、韓国では具体的にどんな取り組みが行われているのか、また、環境問題に対する意識は国によってどのように変わってくるのかなどを知りたいと考え、今回このテーマで調査することにした。留学期間中に調査し、韓国と日本とを比較しながら、どのような要素を学び、取り入れるべきかを考え日本の環境問題改善のこれからについて提言できるようにしたいと考えた。

2. 研究手法

意識調査（アンケート・インタビュー調査）を中心に行う

また、文献調査も並行して行う

II. 研究の流れ

1. 韓国の現状・日本の現状

「2020 年全国廃棄物発生および処理の現況」（韓国政府環境部）によると、2020 年に韓国で発生した廃棄物は一日平均 54 万 872 トン、前年から約 9%増加した。これは、年間で換算すると 2 億トン近くに上る量。

韓国では原則、国内のごみは、リサイクル、燃料への加工、焼却処分のいずれかの方法で処理され、ごみは「一般ごみ」「生ごみ」「資源ごみ」の 3 つに分別している。

一方日本では、2019年度におけるごみの総排出量は4,274万トン（東京ドーム約115杯分、一人一日あたりのごみ排出量は918グラム）で、このうち、焼却、破砕・選別等による中間処理や直接の資源化等を経て、最終的に資源化された量（総資源化量）は840万トン、最終処分量は380万トン。
家庭ごみは、基本的には「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「その他ごみ」の4つに分類される。

2. インタビュー調査

月ごとの取り組みについては下の通りだ。

- 1ヶ月目 環境問題、また環境問題への取り組みについて調査する
- 2ヶ月目 意識調査（アンケート・インタビュー調査）学内
- 3ヶ月目 意識調査（アンケート・インタビュー調査）学外
- 4ヶ月目 まとめ（環境問題に対する意識調査）

●1ヶ月目

1ヶ月目ではまず、韓国では具体的にはどんな環境問題が存在するのか、学校や地域を観察したり、インターネットで調べたりするなどして韓国の実態を知ることが目標とした。

韓国に到着してから、学校や地域の様子を意識的に観察した。観察することで見受けられたことは、道端のポイ捨てが多いということだ。ゴミ捨て場ではないところに結構な量のごみが捨てられているため、その周辺は臭いがひどく衛生状態が本当に良くない。また、大学でもベンチの周りや道端に飲みかけの飲み物や食べ物のごみが散らばっているなど、思っていたよりも至る所にごみが捨てられていて衝撃を受けた。

●2ヶ月目

2カ月目は1か月目の調査を踏まえて、意識調査（アンケート・インタビュー調査）を学内に絞って行うことを目標とした。

まず、大学の韓国人学生に直接、または連絡アプリ（kakaotalkやinstagram、Line）を通してインタビュー調査を行った。具体的なインタビュー内容は次の通りだ。

「SDGsについて知っているか」

「韓国で行われている環境問題への対策・取り組みを知っているか」

「何か個人的に環境へ配慮した取り組みを行っているか」

「どうしたら（なにをしたら）更に環境問題が改善すると思うか」

などについて（必要に応じて適宜に質問内容を変えながら）語学堂の先生や大学の学生計 10 名にインタビューを行った。インタビュー調査の設問ごとのおおまかな結果については次の通りだ。

1. 「SDGs について知っているか」

10 人中知っていると言えた人は、4 人だった。一方知らないと言えた人は 6 人と半数以上を占めており、SDGs について知らない人が多い印象を受けた。

2. 「韓国で行われている環境問題への対策・取り組みを知っているか」

- ・自動車排気ガス規制
- ・再活用品分離排出
- ・ごみの分別収集
- ・工場廃水の規制
- ・海洋生態系の保存
- ・過度な食品包装の規制
- ・カフェ内で使い捨てカップ利用の禁止
- ・ハイブリット車や電気自動車は有料駐車場を利用する時、利用金額を 40%減免などの答えがあった。

3. 「何か個人的に環境へ配慮した取り組みを行っているか」

回答の中で一番多く見受けられた回答は、「使い捨てプラスチックの使用を控える」「タンブラーなどの使い回し容器の使用」などの回答だった。また、「配達食品の自制」や「ボランティア活動に参加する」などの回答もあった。

4. 「どうしたら（なにをしたら）更に環境問題が改善すると思うか」

やはり多く見られた回答は「使い回し品を使う」だった。他には「ごみの分別をちゃんと行う」や「道にごみ箱を多く配置する」などの回答も見受けられた。その中でも印象に残った回答は、「認識改善」や『なぜ環境を大切にしなければいけないか』『日常生活で簡単に適用できる環境保護の方法』などの持続的教育」という回答だ。

実際にインタビュー調査をしてみて、韓国と日本での環境問題への取り組みや意識の違いには大差はないなと感じた。それでも、国によって少しずつ何に重点をおいて考えるかは違い、対策や環境への配慮も違ってくるんだなと考えた。

● 3ヶ月目

3ヶ月目は、1か月目の調査を踏まえて、意識調査（アンケート・インタビュー調査）を学外に絞って行うことを目標とした。具体的なインタビュー内容は2ヶ月目で提示した内容参照。

インタビュー内容について、（必要に応じて適宜に質問内容を変えながら）学外

の韓国人の知り合い計 10 名にインタビューを行う予定だったが、思っていたよりも学外で数を集めることが難しかったため、最大限学外で調査を行ったが、残りの分は更に追加で学内で調査を行うことにした。

インタビュー調査の設問ごとのおおまかな結果については次の通りだ。

1. 「SDGs について知っているか」

学内・学外全体では 10 人中知っていると言えた人は、4 人だった。詳しく見ていくと、学外では 2 人中 1 人、学内では 8 人中 2 人が知っているという結果だった。一方学外では 2 人中 1 人が知らないと言え、学内では 8 人中 5 人、全体では 6 人と半数以上を占めており、SDGs について知らない人が多い印象を受けた。

2. 「韓国で行われている環境問題への対策・取り組みを知っているか」

- ・室内で使い捨て用品のカップ・紙ストローの使用を規制
 - ・レジ袋使用禁止
 - ・ゴミ焼却場バックフィルター
 - ・LG 化学で持続可能な発展のため環境にやさしいプラスチック・廃棄プラスチックを活用して新素材（資源）にする事例
 - ・毎年 8 月 22 日夜 9 時になると明かりを消しましょうというキャンペーン⇨「エネルギーの日」がある
 - ・「ナムウィキ」という韓国のウェブサイト
- などの答えがあった。

3. 「何か個人的に環境へ配慮した取り組みを行っているか」

回答の中で一番多く見受けられた回答は、先月の結果と同じく「使い捨てプラスチックの使用を控える」「タンブラーなどの使い回し容器の使用」「分別収集」「リサイクル」などの生活の中で実践できることについての回答だった。他には、「冷暖房削減」や「ティッシュを最小限に使う」などの回答もあった。

4. 「どうしたら（なにをしたら）更に環境問題が改善すると思うか」

先月多く見られた回答は「使い回し品を使う」だったが、今月の調査では「国家間での協力」や「環境問題の深刻性をもう少し積極的に広報する」など政府や国全体での協力が必要だという回答が多く見受けられた。

例えば、政府や国全体で対策を立てる際、「ただ対策を立てるだけではなく、実践してくれた人に恩恵を沢山与えるという決まりを作れば実践する人も増えるだろう」という意見があった。また、「実質的な国際的協約を通じて、排出物質を制限し、そうでない国にペナルティを与える」という具体的な意見も見受けられた。

一方、「ごみの分別をちゃんと行う」や「近距離は歩く」などの個人個人での行動も大切だという回答もあった。

特に印象に残った回答は、「人間の開発及び活動の最小化」や「牛肉の消費を減らす（牛のメタンガスが地球温暖化を加速させる主犯の1つであり、牛を飼うための放牧場を作るために広い土地の多くの木を切って整理しているから）」などの回答だ。現実的には実施することは難しいかもしれないが、それでも改めて人間が環境に及ぼしている影響について改めて考えさせられる回答だなと感じた。

先月との調査での違いは、4.「どうしたら（なにをしたら）更に環境問題が改善すると思うか」での回答内容ではないかなと考えた。学外での回答は2人からのみしか収集することは出来なかったが、調査をすればするほど人によって同じ内容に対する解決策や意見が違い、新たな発見をすることが出来ると感じた。

III. 考察・結論

実際にインタビュー調査をし、韓国と日本での環境問題への取り組みや意識の違いには大差はないなと感じたが、国によって少しずつ何に重点をおいて考えるかは違い、対策や環境への配慮も違ってくると感じた。また、2、3ヶ月目の調査でどちらも知らないと答えた人が半数以上を占めていたことから、SDGsについて知らない人が多い印象を受けた。

韓国ではSDGsに関する取り組みや政策が存在しているのにも関わらず、それ自体はあまり知られていないという印象を受けた。日本でも、まだまだSDGsの知名度は低い方だとは思いますが、個人的に日本よりも韓国での知名度の方が低いのではないかと感じた。

やはり、課題解決に向けて私たち1人1人に出来ることは「知ること」であると考え。「SDGsとは何か」「今現在の環境状況の深刻さ」など1人でも多くの人に知ってもらう必要がある。小さなことでも積み重ねていくことで、いつしか大きな変化に繋がっていくと考える。

具体的には、2カ月目の学内に絞って行ったインタビュー調査の回答で見られた、「認識改善」や『なぜ環境を大切にしなければいけないか』『日常生活で簡単に適用できる環境保護の方法』などの持続的教育が一番効果的だと考える。これからの未来を担っていく子供たちには、義務教育として環境問題について今までよりも更に詳しく教育していくことが大事だ。

また、成人以上の人々に向けては3か月目の学外（学内）に絞って行ったインタビュー調査の回答で見られた、政府や国全体で対策を立てる際、「ただ対策を立てるだけではなく、実践してくれた人に恩恵を沢山与えるという決まりを作れば実践する人も増えるだろう」という意見や「実質的な国際的協約を通じて、排出物質を制限し、そうでない国にペナルティを与える」などという具体的な意見を

取り入れ、国全体・世界全体で協力して認識改善を促す必要があると考える。

IV. おわりに

韓国ではSDGsに関する取り組みや政策が存在するのにも関わらず、それ自体はあまり知られていないという印象を受けたが、日本も大差は無く同様だと考える。今の環境問題の現状をそこまで深刻に考えている人は少なく甘く考えている人が多いのではないかと考える。意識改善に加えて、1人でも多くの人々が日頃から進んで環境保全のための行動を取れるよう教育を促したり、情報を発信したりする必要がある。

具体的には、日本でも1人でも多くの人に意識調査を行い、日本の環境問題認知の現況を知る必要があると考える。少しでも多くの人に環境問題を発信する方法としては、ネット社会に合わせてネットを有効に活用した方法を提案したい。時代の変化に合わせて柔軟に対応していくことで、更に多くの人々が興味・関心を持ってくれるのではないかと考える。

最後に、韓国留学中は十分に研究を遂行することができなかった。留学期間が短いことに加えて、体調を崩すことが多く毎月同じ熱量で研究に取り組むことは難しかった。私自身「SDGs」という言葉は聞いたことがあったが、どのような取り組みなのか、どんな種類があるのかなどは正確には知らなかった。そのため、今回のSDGsについての調査や報告書作成を通して「SDGs」について改めて学ぶ良い機会になった。これからも日頃から「環境」についての興味・関心を欠かさないよう意識的に生活していきたい。

参考文献一覧

千 娥・周 璋「韓国の生活ごみ処理システムの 持続可能性に関する研究－世界初の地下廃棄物複合処理施設（河南省）を事例として」

朴 正 漢*・ 東 野 達*・ 笠 原 三紀夫*・ 李 炳 仁* 【行政報告】 「韓国におけるごみ従量制の現状と課題」（『廃棄物学会誌』 Vol. 14, No. 1） 2003 年

https://www.jstage.jst.go.jp/article/wmr1990/14/1/14_1_51/_pdf/-char/ja

梁娜瑛・岡山航子「日本と韓国における生ごみリサイクルに対する住民意識の比較研究」（『廃棄物資源循環学会研究発表会講演集』 2010 年 1 月）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsmcwm/21/0/21_0_28/_pdf/-char/ja

環境省「日本の廃棄物処理 令和 3 年度版（令和 5 年 3 月）」

https://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/ippan/r3/data/disposal.pdf

ごみ出しのコツをつかんで楽しく分別しよう！

<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/action/20240221.html>